

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: ベルリン自由大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 3.公務員

派遣先大学の概要

ベルリン自由大学:(以下 FU と呼称) 詳細は以下を参照(<http://www.fu-berlin.de/>) 海外からの学生も多く、留学生には過ごしやすい環境でした。

留学した動機

なによりもドイツ語の運用能力を向上させたいということがありました。それに加えて、学部課程を終えたのちドイツ政治史(特に近代のドイツ統一期)で修士課程に進もうか、あるいは就職活動をしようかおおきく悩んでいたため、それを見定めるとい理由もあってまずドイツで留学してみたいと強く考えるようになりました。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 [3]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2014 年 8 月 ~ 2015 年 8 月 学部[3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部[4]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部[4]年の[9]月頃に(行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[42]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[22]単位
留学後の取得(予定)単位[24]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年
- ⑨留学時期を決めた理由:

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特筆するようなことはありません。大学側から入学手続きにかかわるフォームや様々な情報をまとめたメールなどが届きますので、それを提出していけば問題なく手続きは完了します。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

(ビザの種類) 学業ビザ(1年間)という扱いのはずです。

(申請先) 本来ならば、所定の書式を揃えたうえで Ausländerbehörde(外国人局)まで届け出なければならぬのですが、FU には留学生用のビザ窓口があって、そこに提出すればよいです。なおドイツに長期滞在しようとする日本人は3か月以内ならば、ビザなしでも滞在してよいことになっています。しかし後述するように、ドイツでビザを申請しようとすると相当時間がかかるため、もしかすると日本で手続きしたほうがよいのかもしれない。

(手続きに要した時間) 必要書類の提出後、約1か月かかります。僕の場合は時間が経ってもなかなかビザが来ないので、メールや事務所に何度か連絡をいれて11月後半にやっと手に入れることができました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯医者にて定期健診に行き、虫歯を治療してもらいました。その他健康診断は受診しませんでした。特に常備薬はなかったので、薬類については現地調達していました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険については、2種類の方法があります。

1)ドイツの AOK(半公的な健康保険組合)にドイツで加入する

2)AOK に認定されるような私的な保険に日本で加入しておく

ドイツは福祉国家を自称するほどですので、留学生も保険には加入しなければなりません。その際、注意しなければならないのは、日本の保険会社の旅行保険は、たとえ英語の証明書つきであったとしても AOK には認定されず、日本で加入した保険に加えて AOK にも加入しなければならないということです。つまり、保険の加入が二重になってしまうのです。これを避けるためには、ヨーロッパでも認定されるような保険会社の保険に入っておかねばなりません。僕は Allianz の Globe Partner という保険に加入していました。しかし今考えれば、現地で AOK に入っていたほうが確実に安上がりでした。ということで、AOK 加入までの短期の旅行保険を一応取っておいて、現地で AOK に入ることをお勧めします。

なお、ドイツには各大学に AOK の事務所があり、そこで1)の加入申し込みや2)の AOK による保険の認定を受けることができます。FU では Rost-und Silberrauhe という本部棟にあります。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

法学部で留学しようとする学生は、教務課への留学の相談のうえ、学部長面談を受けなければなりません。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

(出発前のドイツ語のレベル) B-1

(語学学習等) ドイツのテレビ番組は ARD (<http://www.ardmediathek.de/tv>) や ZDF

(<http://www.zdf.de/ZDFmediathek#/hauptnavigation/startseite>) などを日本でもインターネット上で視聴可能ですから、使ってドイツ語の速さに慣れるというのもいいかと思います。最初のうちは難しいので、字幕付きのプログラムを見るといいのかもしれません。この二つのうちでも特に ARD のニュース番組 tagesschau では約 15 分でドイツやヨーロッパ情勢を(ドイツ語学習のついでに)簡潔に知ることができますので、おすすめです。さらに Deutsche Welle (<http://www.dw.com/de/deutsch-lernen/s-2055>) のサイトでは単語や文法事項までさまざまなドイツ語学習の素材を発見することができます。

ドイツ語の読み書きということになりますと、当地で発行されている新聞や雑誌を読むのが一番です。僕はその中で使われている自然な、あるいは使ったことのない表現をチェックしていました。ハンブルクで週一回発行される die Zeit (<http://www.zeit.de/index>)、ミュンヘン発行の日報 Süddeutsche Zeitung (<http://www.sueddeutsche.de/>)、経済の中心地フランクフルト発行の Frankfurter Allgemeine (<http://www.faz.net/>)、といったところが主な全国紙でしょうか。加えて総合雑誌の Spiegel(<http://www.spiegel.de/>) もあります。ぼくは Süddeutsche Zeitung が読みやすくて隙でしたが、もちろんこれ以上にいろいろな地元紙や雑誌があるので、自分の好みに合わせて読んでみるというかと思います。これらはインターネット上でも、無料で全文を閲覧することができます。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

衣食住で困ったことはほとんどありませんでした(後述のように住居には少してこずりましたが)から、日本から持参すべきものというのは思いつきません。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- ドイツ語学期前コース
- ドイツ語 B1-2 コース(夏学期)
- ドイツ語 B2-1 コース(冬学期)
- ポーランド語 A-2 コース
- ドイツ語音韻の理論と実践
- 近代史概説
- 太平洋をめぐる近代史
 - 第一次世界大戦
 - ポーランド第二共和制
 - 第三帝国と第二次世界大戦

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

上記の授業科目を見ていただければわかるように、ドイツにいるにもかかわらずポーランドに関するゼミやポーランド語の語学コースも受講しました。友人にポーランド人が相当数いたという短絡的な理由もありますが、ベルリンの地理もあって、これまで触れる経験のなかったポーランドについて知ってみたいと考えたためです。特にポーランド第二共和制のゼミでは、戦間期にポーランドにいたユダヤ人が、期待していたよりもずっと社会に統合されて生きていたというのを当時の新聞やビデオ資料から伺い知ることができ、衝撃的だったとともに知的興味をくすぐられました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

講義に触発されて自分で勉強するということが日本以上に重んじられるため、自分で学習するための時間も考慮して、週に5~8コマが普通のようなのです。

④学習・研究面でのアドバイス

最初のうちは録音機を使うのもいいかとは思いますが(やはり聞き取れるか怖いので)、そのうち使わなくなりますからそもそも使わないほうがよかったですかとは思いました。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

言語能力は使わなければすぐに落ちてしまうものなので、積極的にひととコミュニケーションをとるようにしたほうがいいかと思います。もちろん日ごろから講義や新聞、あるいは店頭でドイツ語を使うことになるのですが、「会話」をするとなると別です。話そうとすると昨日よりも、ドイツ語が口から出てこずに落ち込んだときもありましたし、喋れる日あれば喋れない日もあるという波があるのでしょうか。

語学ですが、新聞などの文章表現を学ぶことのほかに、会話で使った表現を学ぶこともまた重要です。そのためには、もちろんドイツ人と話すことも重要ですが、ドイツ人が話すところを聞いているというのも重要になるかと思

ます。(やるべきではないのかもしれませんが)たとえばS-BahnやU-Bahnなどの交通機関のなかでドイツ人が話しているのを聞いて、気になる表現をメモしておき、あとから調べるといことを僕はしていました。また友人の留学生が新しい表現を使っていたらそれを真似たり…。なんにせよドイツ語しかない(実際にはベルリンという都市自体国際的ですし、大学にも留学生が多いので英語も通じますが)環境に晒される絶好の機会なので、五感を使ってドイツ語を習得するのがよいです。

また第三外国語に挑戦するのもよいかもしれません。その中で「これはドイツ語でなんというんだろう？」という疑問からドイツ語に立ち返り、単語を増やしていきました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ベルリン自由大学から、留学生向けに住居の斡旋サービスがあり、当初は Studentendorf Berlin-Schlachtensee (<http://www.studentendorf-berlin.com/schlachtensee> を参照) という学生宿舎に宿泊していました。学生宿舎のなかにもさまざまな部屋のタイプがあり、一人部屋(キッチン共用)からWG(一人ずつの部屋と共用キッチン、シャワーとトイレ)までさまざまです。WGのカテゴリの中でも共用スペースに掃除のおばさんが入るか、入らないかなど様々でした。そのなかで、僕は安かったこともあり、またドイツ人や外国からの留学生と交流する中で、ドイツ語力も上げられるであろうと期待して、WGの掃除サービスなし(240€ /月)を選択し、渡航の一ヶ月前には応募しておきました。

ところが、いざ入居してみると、初日からゴミ箱にはハエが湧き、シャワーは水が出ず、あるいは水が出て排水が詰まっているという始末でした。そこで耐えかねて Hausmeister と呼ばれる管理人に相談しても「WGなのだから自分たちでなんとかするものでしょう」の一言で取り合ってくれませんでした。ほかの Schlachtensee に住んでいる留学生に聞いてみると、「僕の部屋はそんなことはないんだけど」と頭をかしげられました。実際彼の部屋を訪ねたこともありましたが、僕のWGとはなるほど雲泥の差でした。

仕方なく、大学の住居斡旋サービスに相談しましたが、全て空室待ちで即入居は難しいとのこと。以前短期で語学研修をしたミュンヘンのホストファミリーや、別のハンブルクの友人に相談しても解決するわけもなく、パニックに陥りそうななか、英語もドイツ語もままならず、助けてくれたのはFUの Student Service Center に勤めていた Japanologie (日本学)の院生でした。彼女も学部時代に Schlachtensee に住んだことがあり、僕の話をよく聞いてくれて、心の支えになりました。また住居を探す方法として「WG-Gesucht」というサイトの存在を教えてくださいました。

WG-Gesucht (<http://www.wg-gesucht.de/>) というサイトはWGを探しているひと並びにWGの住居人を探しているひとのためのサイトで、ドイツ全般で学生を中心に広く用いられているようです。部屋の条件を絞り込んで検索することができ、気に入ったWGがあればフォーマットを使用して供給者側にメールを送り、供給者側から反応があれば内覧の日取りを決めて、そののち契約に移ります。しかし、多くの場合需要過多であるため、メールを送っても返信がなかったり、内覧をしてもあちらが別の住居人を決めてしまったりということは多々あります。

あらゆるWG供給者にメールを送り続け、幸運にも一週間でWGの契約まで漕ぎ着けることができました。こちらのWGはFUからは40分と多少遠く、WG内で肉や魚を使って料理をすることはできない、アルコールを飲むことはできないなど奇妙な条件があったものの、駅からすぐであり、ベルリンの中心街も容易に到達でき、またショッピングセンターも目と鼻の先にあったため、即決しました。なお家賃は月395ユーロでした。一方で Schlachtensee の宿舎は「次の住居人を見つけなければ、契約の解除はできない」とその事務所に要求されましたが、その事務所に空き部屋を訪ねにやってきた学生にお願いし、自分の部屋を引き取ってもらうことができました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:夏は暑いながらもカラッと乾燥しており過ごしやすく、朝は5時から夜は21時まで明るいですが、ただ直射日光は相当に強いため、サングラスをかけないと目が痛くなってしまったりする人もいます。一方ベルリンで最も辛いのは10月後半から2月までの冬でしょう。朝は10時から夕方16時までしか明るくないため、生活リズムを崩したり、気分が落ち込んでしまったりということもあるようです。

大学周辺の様子: FUがあるダーレム地区は、ベルリン郊外ポツダム側にあつて、大学や研究施設以外は閑静な住宅が立ち並ぶ地区です。ベルリンの西側の中心地 Zoologischer Garten までは地下鉄で20分、東側の中心地 Friedrich Strasse まではバスと近郊列車 S-Bahn で約40分ほどです。

交通機関: ベルリンの公共交通機関はBVG(ベルリン交通局)が一括で管理しており、東京でのようにいちいち切符を買いなおす必要はありません。信用乗車制を採用しているため、日本のように改札はありません。また大学生は、学生証がそのまま Semesterticket (一学期間有効なパス) になっており、ベルリンのA~Cゾーンまでというかなり広い地域を無料で使うことができます。しかしFU学生証には所持者を本人と確認するための写真がついていないので、車内でチケットコントロールを受けた際には、官庁発行の身分証を提示しなければなりません。(EU市民ならばIDカードがありますが、EU外市民だと自動的にパスポートということになりそうです。なお僕の友人はAOK保険証やパスポートの写しでも問題なかったとのことですが、いつも問題ないとは限りません)学生証を携帯せず、あるいは学生証を携帯していたとしても、求められた身分証を係員に提示することができなかった場合は、指定の期日までにベルリン交通局の事務所(Jannowitzbrücke 駅近く)で過料を支払わなければなりません。通常は40ユーロですが、学生証を示せば、10ユーロになったはずですが。

ベルリンの交通網は(東京ほどではないにせよ)非常に発達しているもので、どこに行くにも重宝します。乗り換え情報を確認するにはGoogle Mapのほかベルリン交通局の公式アプリが便利です。平日はS-BahnやU-Bahnの終電後も Nachtbus が走っていますし、金曜日から日曜日は全市内交通機関が終日運転です。代わりに1週

間から場合によっては3か月以上まで、特定の市内鉄道網が整備のため、不通になることがあります。事前に告知がなされますので、車内放送や駅での案内などを通じ交通情報には十分注意してください。

食事:「ベルリンは安くでおいしいものが食べられる」とドイツ人のなかでもよく言われるほどで、物価とくに食費はミュンヘンやフランクフルトなどのドイツの他の都市に比較してもかなり低いようです。あちらこちらの街角に Imbiss と呼ばれる軽食スタンドが立っており、ソーセージやケバブ、シュヴァルマなどを販売しています。ベルリン内の地区にもよりますが、2~4ユーロでお腹一杯になります。試験前や自炊する気がないときなどに重宝します。

スーパーも日本に比べて大型のものがたくさんあり、価格も良心的です。野菜や卵などときどき傷んだものが店頭で並んでいる場合もありますので、しっかり見て買ったほうがいいです。日清焼きそばやチキンラーメンなどが高確率であります。アジアマーケットも市内各所にあります。和食を自炊したいというときでも苦労なく食材を調達できますが、賞味期限を確認のうえ購入してください。賞味/消費期限が切れたまま店頭で並んでいるケースが多いそうです。

和食やアジア料理が懐かしくなったときは S-Bahnhof Savignyplatz から歩いてすぐ Kantstraße に各種アジアレストランがあり、安くで本格的な味を楽しむことができます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先の治安:ベルリンは他のドイツ大都市と比べ失業率は高いですが、治安が悪いという印象は受けませんでした。もちろん繁華街は夜ともなれば、危ないかもしれません。夜に危ないだろうという印象を受けたのは U-Bahn の Gorlitzer Bahnhof, Warschauer Strasse そして中央駅の Hauptbahnhof 周辺です。Gorlitzer Bahnhof や Warschauer Strasse 周辺では薬物・アルコール中毒者らしき人物や薬物の売人が夕方から夜にかけてたむろしている様子でした。僕自身は Warschauer Strasse で見ず知らずの人物に抱きつかれたり、中毒者らしき人物に足をつかまれたりしたことがありましたが、特に危害を与えられるということはありませんでした。

ベルリン東側郊外の村には以前ネオナチの関わった事件があったようですが、僕自身がいたときにはなにもなかったのでもなんとも言えません。

つらつらここまで書いたとはいえ夜になれば警察や公共交通機関の警備員がしっかり巡回していますので、問題ないとは思います。

医療機関の事情:幸運なことに医療機関にかかるほど、大きな病気や怪我をしませんでしたが、なんとも言えません。一つ明らかなのは、ドイツの医療機関はほとんどが予約(Termin)を必要とするということです。つまり日本のように「風邪を引いたので、そのまま病院に行き診察してもらおう」ということはできません。

薬局は(ほかの店と同様に)日曜日には大概閉まります。しかしながら、閉まっている薬局は必ず店先に、その地区の営業中の薬局を示しています。またベルリン中央駅にも薬局があり、毎日営業していますから便利です。

心身の健康管理で気をつけた点:前述のように冬は夕方16時ごろから暗くなり、朝8時までは明るくなりません。信じられないとは思いますが、慣れない寒さと暗さで、日本人留学生のなかには気分の落ち込んだ人もいました(もれなく僕も疲れ気味でしたが…)そんなときには貯めこまずに、他の人に相談してみるのが一番です。冬はドイツでもつらい季節ですが、一方でクリスマスマーケットがいたるところで開かれています。大学のあとクリスマスマーケットによってグリューワインを飲み、ほっと一息ついてみるのもいいのかもしれない。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

住居(光熱費、水道代、インターネット経費込み) 395€
交通費 0€
食費(娯楽費等含む) 300€
書籍代 30€
計 725€

・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

僕は全学交換留学の追加募集に応募しましたので、奨学金の様々なプログラムに募集するには遅すぎるとほとんどあきらめていましたが、本部国際交流課の方からの紹介があり、JASSOからの月額8万円(返還義務なし)を受給することができました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

地元のスポーツ団に入って、ラグビーやソフトボールを楽しみ、その中で大学以外のコミュニティを作っている友人はたくさんいました。また大学のオーケストラの入団試験に合格し、大学の合間を縫って演奏旅行に出かけ、国賓の前で演奏する機会を得たこともありました。留学生だからと遠慮することなく、積極的に地元のコミュニティに参加すればよかったと後悔することひとしおです。

僕自身がボランティアをしたということではありませんでしたが、友人の一人のフランス人が、シリアや北アフリカからベルリンにやって来た難民のコミュニティを広げる目的で団体を設立していました。彼女に誘われて、該当団体の活動に参加したことはありました。難民の問題はほとんど日本のマスコミでは取り上げられませんが、ドイツやフランスなどヨーロッパ各国では非常に身近な切迫した問題なのだということを痛感させられました。また同い年の学生がそうした問題を直視し、団体を設立してその実質的な運営に携わっているという事実に衝撃を受けました。

僕は週末、友人と会ったり、一人でポツダムやマグデブルク、シュテッティンなどベルリン近郊の町に出かけたりしてゆっくりと過ごしました。

長期休暇には、せっかくヨーロッパにいたので、いろいろな「本物」を見てみたいという思いから、さまざまな場所に出かけました。交通手段が日本に比べ相当に安価なので(僕は個人的に鉄道が好きだったのでどこへでも鉄道で行っていましたが)、地元に戻った留学生を訪ねたり、以前語学留学でお世話になったホストファミリーを訪ねたりしました。ワルシャワまで乗り換えなしで6時間(ドイツ=ポーランド国境までは1時間)、プラハまでは4時間と、少し移動するだけでドイツとは全く違う光景が広がっているのは衝撃的でしたし、駅を1つまたいだだけで車内放送がドイツ語から突然ポーランド語やチェコ語、イタリア語などに代わるのも日本からあまり出たことがなかった僕には奇妙な感じでした。狭いヨーロッパの中の多様性を感じることができたという意味で、旅行は大きな意味があったように感じます。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面: FU は語学へのサポートが相当に充実していると自信を持っていうことができます。

9月初旬からは留学を始める学生向けに Vorkurs と呼ばれるドイツ語の集中コースがあります。午前中は約15名でドイツ語を使って読む・書く・聞くという授業があり、午後にはベルリンを体験することができる博物館や場所を訪れます。ドイツ語に馴染むという意味だけでなく、他の留学生と知り合ったり、ベルリンの町の雰囲気を知ったりという点でも有意義なコースだと考えます。実際、そこで知り合った留学生とは留学中ずっと親しくして、昼食を一緒に食べたり、会って話したりしました。長期休みのときは招待されて、ワルシャワ、パリ、バレンシアなどにも行きました。今でもかけがえのない友人たちです。

大学の学期中もドイツ語の語学コースはありますが、Vorkurs と比較すると、人数も多く一週間に計4時間しかありません。しかし自分の中の文法事項の穴を見つけたり、ドイツ語の単語や言い回しの素材を集めたりという意味で重宝しました。

夏学期はドイツ語コースに加えて、自分の関心からポーランド語のコースも受講しました。ポーランド語の素地がほとんどゼロのなかから、ポーランド語で説明(難解な文法事項はドイツ語でも説明がありました)を受けるのは当初なかなか苦痛でしたが、慣れてくれば問題ありませんでした。その言語に慣れるというのは文法や単語を学習する以前に重要なのだと思います。

語学のコース以外にも外国語を習得する機会を大学では提供してくれています。その一つが Rost- und Silberrauhe(大学の一大キャンパス)に備え付けられている Sprachzentrum(言語センター)です。ここではドイツ語の教材はもちろんのこと、各言語の習得のためのさまざまな素材を提供してくれています。言語センター内のパソコンでは各言語試験に向けた模擬問題を受けることもできます。詳細についてはこちらをご覧ください。(<http://www.sprachenzentrum.fu-berlin.de/>)

この Sprachzentrum ですが、教材を提供してくれるほかにタンデムパートナー(言語交換パートナー)を探すのを手伝ってくれます。FUには日本学科も存在するので、日本語を勉強したいドイツ人ネイティブから直接ドイツ語を学ぶことができ、逆にドイツ人に日本語を教えることができます。ドイツ語を生で学ぶ絶好の機会であるとともに、日本語やその文化を外国語で説明する難しさを生身で実感できます。僕は大学経由ではなく、飲み会で知り合った社会人ドイツ人と週3時間タンデムをしていましたが、彼が法律や政治学を以前勉強していたこともあり、興味関心が一致していたので、非常に有意義で楽しい時間を過ごすことができました。大学経由のタンデムについてはこちらです(<http://www.sprachenzentrum.fu-berlin.de/slz/tandem/index.html>)

学習面: 通常の学部の授業のほか、留学生向けの講義も準備されています。(が、僕は興味を引かれるテーマがなかったため受講しませんでした。)

また学部ごとにチューターシステムがあり、講義やゼミの理解を深めることができます。歴史文化学科にもあって、メールアドレスなどなどを書き込んだのですが、うんともすんとも反応がなく、僕はチューターシステムを使いませんでした。

ドイツの大学ではレポートやプレゼンにつき、ゼミの担当の先生と事前に話す Sprechstunde が設けられていますが、日本とは違って先生と学生の距離がかなりあり、しかも先生はあまり学生に時間を取られたくない様子でしたので、どのようにこの Sprechstunde が役割を果たしているのかついぞわかりませんでした。

生活面・精神面でのサポート等: Studierenden-Service-Center という建物があり、大概の悩みや質問はそこで解決してくれます(<http://www.fu-berlin.de/studium/beratung/ssc/>)僕の留学中は、上述のとおり、日本学の院生がここでアルバイトをしていたので留学当初は彼女がよく相談にのってくれました。

大学の公式なサポートだけではなく、自分という人物をよく知ってくれている(と考えられる)ひとに相談するのも一つのテです。前述の Vorkurs の先生やタンデムパートナーとも仲良くしていたので、ドイツでの賃貸契約の解除のしかたから個人的な悩みの相談まで、いろいろなことを話し、解決策や知人を紹介してもらいました。

全般的にですが、公式のパイプを通じて問題を解決しようとするよりも、自分の身近に直接聞いてみるほうが、解決が早い気がします。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館: 学部の図書館はもちろんのこと、大図書館を2つ FU はかかえています。それぞれの図書館によって貸出期限など条件が異なりますので、事前に各図書館の HP で確認してください。通常、大きな荷物は入口のロッカーに預け、図書館に持ち込むものは透明な袋にいなければならない。

本を延滞した場合、ペナルティとして1冊につき1ユーロの延滞料金が課されます。返却する図書館の窓口で説明のうえ、現金で支払うこともできますし、銀行で指定の口座に振り込むこともできます。延滞しないのがなによりではありますが……。

また FU の学生証があれば HU(Humboldt Universität zu Berlin:ベルリンにあるもう一つの大きい大学)の

図書館も登録することで使えるようになります。

食堂:Mensa と呼ばれる食堂が各学部棟にあります。Mensa を運営しているのは、日本でいう大学生協に対応するような Studentenwerk と呼ばれる団体です。Mensa は基本大学に関わっているひとしか使うことができます。そのため初回の使用時にはカウンターで、Mensa-Card と呼ばれるカードを購入します。このカードに Suica と同じ要領でお金をいれ、このカードで食事代を払ったり、コーヒー代を払ったりします。

Mensa では皿に好きな料理をついでいき、最後に会計します。外食よりも安価ですし、なにしろ大学の周りに食事するようなところがあまりないので、決まって Mensa で食べていました。個人的には Mensa の食事はそれなりに美味しいと思っていましたが、ある日本人留学生によれば「まずい」、ドイツ人学生によれば「食べられる」で意見はさまざまのようです。なお政治学部棟の近くにはベジタリアンの Mensa があり、肉や魚を使わない学食を試してみることができます。

留学と就職活動について

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

考え方とは言わないまでも、非常にメタなレベルで留学は僕を相当に変えたと信じています。なによりもかけがえのない友人をドイツ、フランスをはじめヨーロッパ各地や南米に得ることができました。今なによりも基底にあるのは、もう一度彼等に会いたいという思いです。以前から外国を相手にし、いつも移動しているようなそんな仕事があったいと漠然と考えてはいましたが、「あの人たちに会いたい」という強い思いが加わって、そういった仕事への意欲が一層高まりました。当然、今や国際化の時代ですから、どのような職場に働いていても海外に出る経験はあるかもしれませんし、休みを利用して海外に旅行に出かけるということもできるかもしれません。ただそれでは足りず、今はもっと日常的に海外にいたいという気持ち、あるいはそのような職場で働きたいという気持ちが強いです。

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

「タフでグローバルな東大生」というのは、濱田前総長のスローガンであったと記憶しています。タフでグローバルになれたかはさておいても、留学に出れば必然的にあらゆる地域からの学生や人々と付き合わざるをえなくなりますし、そういった人たちと交流することは非常に楽しいことでした。「グローバル」とスローガンを掲げればあたかも特別なものであるかのように感じられますが、そんなに特別なものではなく、単にいろいろなひとと付き合うという極めてシンプルなものであるようにおもいます。いろいろな人と付き合っていて、気づいたら、それがいろいろな国から来た人たちであったというような。

ドイツの大学は徐々に人気になりつつあります。その理由は授業料を払う必要がないためで、今や中国やイギリス、アメリカや東ヨーロッパの国々まで、さまざまな国から通常の学生として勉強や研究に来ているひとがたくさんいます。FU も例外ではありません。ポーランド語のコースを受講したときもドイツ人、ウクライナ人、スロヴァキア人(そして日本人!) とさまざまな背景をもった学生がいました。

またベルリンの壁が崩れて 20 年、ベルリンという都市自体もゆっくりと多様な人々を受け入れています。Gastarbeiter として西ドイツにやって来たトルコ人、東ドイツにやって来たベトナム人のほか、難民のシリア人、アメリカに渡航できないイラン人がいます。もちろん EU の経済・政治に大きな役割を担うドイツの首都でもありますから、フランス語やポーランド語、英語やスペイン語を町のいたるところで耳にすることができます。

こうしてみると、日本がかなり閉鎖的な国なのではないだろうかと思わざるを得ません。なるほど、浅草に行けば相当数の国外からの観光客を確認できますし、飲食業で働いている外国人も相当数います。しかしそれにしても日本の性格(というものがあるとすれば)としてかなり内向きなのは否定できないのではないのでしょうか。ニュースをつければ連日国内の事件事故を報道していますが、国際問題についての情勢は国内メディアではうかがい知ることがほとんどできないように思われます。「日本の素晴らしさを伝える」「クールジャパン」の前に、こちらが外の世界を知ることのほうが先ではないかと痛感しました。

専門分野の知見を広げるといっても当然に重要ですが、ぼくにとっては生で(英語ではなくて)ドイツ語を話すことができ、それによって多くの友人をつくることのできたということがなよりの喜びでしたし、それが将来への大きなモチベーションになっています。ここまでのレベルまで引き上げられたドイツ語をさびらせることがないように、努力は怠らないようにしたいところです。

②留学後の予定

一年留年し、法学部の必修単位数をそろえるとともに、公務員試験を受験し、また一方で商社などの貿易や国際交流に携わることができるような民間企業への就職活動を行うつもりです。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

人によって留学の目的は様々ですので、一概には言えませんが、勉強だけでなく留学先で得られる人とのつながりは一番の宝です。日に日に成長するベルリンを楽しんでください!



Wiener Secession



Berlin-Alexanderplatz

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 教育学研究科 博士課程3年

参加プログラム: 全学交換留学プログラム

派遣先大学: ベルリン自由大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

ベルリン自由大学

ベルリンの中で最大の規模を持つ大学(フンボルト大学、ベルリン工科大学がそれに次いで大きい)。1809年にフンボルトによって設立されたかつてのベルリン大学(現フンボルト大学)が、戦後ソ連の占領下に置かれたため、それに反対した研究者らが、当時アメリカの占領下にあったベルリン南西部のダーレム地区に1948年に新たに設立した。

留学した動機

修士論文では19世紀ドイツの哲学者を中心に心理主義と反心理主義との論争について執筆し、博士論文では言語をテーマにして18世紀後半から19世紀初頭にかけてのドイツロマン主義について書く予定でいた。したがってドイツへの留学を希望し、哲学の見識を深めるとともに、ドイツ語の能力向上も目指して、ベルリン自由大学への交換留学を強く希望した。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/留学

③留学期間: 2014年10月 ~ 2015年8月 学部/修士/博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[37]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2009]年[4]月入学 西暦[2017]年[3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [8]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

博士課程3年という遅い段階での留学でしたが、これまでまったく経験がなく、一度は海外で留学したいと思って決意しました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学手続きに関しては、特に大変な箇所はありません。入学手続きをしたい旨を留学生課の窓口で申し出、そのうえで事前に必要書類として準備した書類を持っていけば大丈夫です。保険は、事前に入っていればそれに越したことはありませんが、入っていない場合でもAOKという公的な保険に入るよう勧められますし、その際の手続きなども教えてくれます。むしろ、事前に他の保険に入っていると、その保険で大丈夫かどうかAOKの職員さんに一度聞いてきてくださいと言われ、用紙を一枚渡されます。その用紙を持ってAOKの職員さんのところで署名を頂き、それをもう一度留学生課のところに持って行って提出するという形になります。30歳以上だとAOKの保険料が非常に高くなるので私は事前に別の保険に入っていましたが、30歳未満であればそこでAOKに加入するののも一つだと思います。なお、AOKの事務室も大学内にあります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ベルリン自由大学の場合、ビザ申請は大学の留学生課でやってくれるので(Pass Serviceという部局があります)、わざわざ外国人局(Auslandsbehörde)に予約を取って行く必要はありません。ここでも、事前に必要とされた書類を持っていけば特に大変なことはありません。写真については、サイズや明るさなどを指摘される可能性があるのですが、万全を期すならば現地の写真屋でビザ申請のために写真を撮りたいと言って、撮影してもらえば大丈夫です。日本から写真を持っていくよりも、その方が確実かもしれません。あと、申請料金として50ユーロ必要ですので忘れないで持って行ってください。むしろ、ビザ申請の前に行わなければいけない、住民登録の方が大変です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬としては、一応普段日本にいるときに持っていたものを、持っていくと安心かと思います。私の場合は、バファリン、ビオフェルミン、葛根湯などがそれに該当しましたが、うっかり持って行くのを忘れ、やや不便な思いをしました。とくに整腸剤などは現地の薬局に尋ねてもどこにもなかったので、お腹が弱い人はビオフェルミンをしっかり持って行ったほうがよいかもしれません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

私は Step In という保険に加入しました。上述の通り、30 歳未満であればかなり安い料金で AOK という公的保険に加入することも出来ますので、そちらの方が良いかと思えます。民間の保険に加入したいのであれば、あまり安い保険はお勧めできません。Step In は料金は高めですが保障は手厚く、入学手続きでも OK となりました。実は一番最初は格安の民間保険会社に登録したのですが、入学手続きでしっかり認められるようにと Step In に変更しました。最初の格安の方の会社には、すぐに解約の手続きをしたのですが、半年後に「解約の通知など貰っていない。支払いが遅延しているので今すぐ払いなさい。」というメールが来て、少々トラブルになり対応に追われたことがあります。最終的に、大学の留学生課の方が対応して下さり事なきを得ましたが、その会社の私に対しての言い分と、留学生課の職員に対する言い分が全く違っていたという事実を勘案すると、格安の場合えてしてそういう危険性があるということを念頭に置いておいた方が良くもかもしれません。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

履修、単位、試験、論文提出などに関しては、特に留学のための手続きを何かしら行ったというものはありません。大きなものは事務的な手続きのみです。ただ、今回の留学のためということではなくして、2013 年に駒場の独文の授業でドイツ語の先生の授業を履修し、受講者が私 1 人しかいなかったため、相当みっちりドイツ語を叩き込まれたという記憶があります。最終的に、ドイツ語能力について推薦状を書いてもらうとき、その先生に頼んで無事書いて頂きました。特に留学のための対策ということではなく、普段からそうして興味を持ってチャレンジしていれば、自然と良い人脈、良い環境に恵まれてくるのだと思います。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

私の場合は英語ではなくドイツ語でしたが、ドイツ留学をしたいと方針が決まったのが 2012 年 10 月で、同年 12 月から Goethe Institut のドイツ語クラスに通いました。論文のために文法やドイツ語講読は以前から行って来たとはいえ、会話では自己紹介をするのがやっとというレベルでした。しかし、2013 年に相当集中的に Goethe Institut でドイツ語のクラスを履修し、2014 年 3 月に Goethe Zertifikat という試験で B2 のレベルをどうにか合格しました。B2 をクリアしていれば、大学の講義などでもだいぶドイツ語の理解がスムーズになります。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

事務用品などは、日本の物の方が使い勝手が良いので、ホチキスや穴開け機、ファイルなどは余裕があれば持っていた方が良いです。本などはあまり大量に持っていくと帰るとき大変なので、厳選した方が良いと思います。現地でもどンドン買うことになると思うので、荷物は少な目くらいがちょうどいいかもしれません。渡航時にあまり多く持っていくと、空港のチェックインの時に重量超過になる可能性もあるので気を付けてください。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Schreiben und Präsentieren (Themenschwerpunkt: Zeitgeschehen) Schwerpunkt auf Ausbau der produktiven Fertigkeiten Sprechen und Schreiben

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

上記に挙げたドイツ語の語学の授業は、毎週のように宿題が出ていたので、ライティングの宿題ならば 1 週間かけてテーマを絞り、新聞記事などを選択し、そして土日で執筆し、授業日に提出するという形でした。ただし、宿題によっては 1 時間半くらいある You Tube のドキュメントをドイツ語で聞き取り、それについての設問に答えてくるというものもあったので、そうしたリスニング中心の課題は非常に困難を極めました。授業の後半ではプレゼンテーションがあり、私の班は原発問題について取り上げ、私がクラスで唯一の日本人であったため、福島の問題についてプレゼンを行いました。そのことを通じて、ドイツ語云々よりも、世界の人々が高く関心を持っている福島の問題を伝えていくということがどれだけ重要なことか、という日本人のあり方のようなものを深く考えさせられました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

博士課程の学生は授業の履修が出来ないので、上記の語学クラス以外は履修していません。かなり語学クラスの宿題が多かったので、授業のないときはその準備にまずは結構な時間を費やしました。もちろん、それを通じてドイツ語の不十分だった点がかかなり強化された気がします。そして、あとは自分の図書館で自分の専門に関する書物を読み、それをまとめることに時間を費やしていました。大学以外の授業としては、Institut Français でフランス語の授業を、Acedemia Linguae という機関でラテン語を履修しました。

④学習・研究面でのアドバイス

やりたいことは遠慮せず、悔いのないようにやれば良いと思います。最初はもちろん、語学の上で苦勞するかもしれませんが、継続していれば必ず伸びます。ただし、自分の今のレベルというものを客観的に自分で把握しておくことは大事です。今の自分よりも下のレベルのものを選択すると、退屈で意味のないように感じてしまいますし、逆に上過ぎるものを選択すると、きつすぎてついて行けなくなります。自分の今のレベルよりも、多少上だが努力すれば達成出来るというものをいかに上手く見つけて選択できるか、が鍵になります。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

最初は大変だと思います。特に聞き取りについては、ドイツ語で話をすると相手の言っていることが全く理解できないという状況が続くと思いますし、実際に私もそうでした。なので、聞き取れなかった単語は自分で確認をする、あるいは現地の友人を作る(ドイツの場合タンデムという語学学習パートナーを探すシステムが充実しています)といったことが大事になるのではないのでしょうか。あと、ベルリンの人たちはこちらが外国人だと見ると、たとえドイツ語で話しかけてもしばしば英語で返して来たりします。どうしてもドイツ語だけで挑戦したければ「英語はできない人」を敢えて装ってみるのも一つかもしれません。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

○留学開始から 2015 年 2 月 20 日まで
Studentendorf Schlachtensee 月 290 ユーロ

○2015 年 2 月 21 日から留学終了まで
大学の近くの、外国人留学生などを受け入れている一軒家のお家に滞在 月 370 ユーロ

最初の Schlachtensee は渡航前の手続きで斡旋された学生寮です。その後入居した家は、WG Gesucht というドイツのアパート探しサイトで見つけました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

最初の Schlachtensee はお世辞にも良い環境とは言えませんでした。シャワーのお湯が出なくなることが半年の間に 5, 6 回ありました。また、一緒に入居したルームメイトが夜中まで友人を連れ込んでうるさく騒ぐ人たちだったので、勉強したくても集中できないという状態が続きました。ストレスも溜まり、半年の間に 4, 5 回高熱を出して寝込みました。だんだんエスカレートし、たまたまこちらが注意したても聞く耳を持たず、最後には半ば喧嘩別れという形になりました。この寮は以前からそういう騒ぐ学生が多いことで有名という話も聞きましたので、こういう学業にあまり適さない環境であったならば、特に博士課程の学生には向かないという情報を渡航前に添えてくれたら良かったのになあと感じました。

新しい家に引越し後は、そうしたトラブルはまったく起こりませんでした。

交通機関は、概ね正確だと思いましたが、思わぬ落とし穴があります。学生であれば、入学手続きの時に支給される学生証に付いているチケット(Semesterticket)を使ってどの交通機関も乗れますが、この場合、必ずパスポートも一緒に携帯していなければいけません。留学生課ではそのことは教えてくれませんでしたし、他の日本人学生も知らないという状態でしたが、私は一度車内でチケット検査の係員に引っ掛かり、違反で罰金を支払う羽目になったことがあります。大学では Semesterticket だけで良いと言われた、と反論しても聞き入れてくれませんでした。ということで、パスポートは原則毎日携帯しておくのが必須ということになります。

食事は概ね私の好みに合いました。日本のドイツ料理屋では 1000 円以上もするビールが、ドイツのスーパーでは 90 セントくらいで売っていたので、私としてはとても良かったです。

お金は、1 か月または 2 か月に 1 回の割合で実家から 20 万円ほど(奨学金プラス親の援助)送金されました。実家の地方銀行からでも送金が可能でしたので、大手銀行であれば問題なく出来ると思います。ドイツで私が口座を開いた銀行は Deutsche Bank です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ドイツは治安は比較的良好ですので、最新の注意を払っていえば大丈夫かと思います。ベルリン市内でも観光地などでは盗難に遭ったという人の話を何度か聞きましたので、やや注意が必要かと思います。

私は観光地ではなく、大学内で盗難に遭いました。ロッカーにパソコンと電子辞書の入ったカバンを入れ、おそらくは鍵をかけたと思うのですが、30 分後に戻ってみると鍵が開いており、カバンがなくなっていました。最初は盗難と判断せず、大学内の遺失物係などにも連絡して探してみたのですが、結局見つからず、盗難届を出しました。パソコンは結局新しいものを買って、電子辞書は日本人の知人から譲り受けました。ふとした気の緩みが思わぬ落とし穴になるので注意です。

医療事情については、概ね充実していると思います。

ベルリンは気候が安定しませんので、夏でも気温が 20 度を下回るようなら重ね着をして出掛けた方が良いと思います。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃 370 ユーロ

食費 250 ユーロ

教科書代 50 ユーロ
授業料 150 ユーロ(Institut Français など、月平均で)
娯楽費 100 ユーロ
航空運賃 渡独 100,000 円 帰国 650 ユーロ

・留学に要した費用総額とその内訳

11,470 ユーロ
(=(370+250+50+150+100)×11+700+650 /※渡独の 100,000 円は 700 ユーロとして計算)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

月額 80,000 円 日本学生支援機構より

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ベルリンにある日本人学校を訪問し、ドイツ語と英語の授業を参観しました。校長先生から「どうぞ佐藤さんも子どもたちに教えてください」と言われましたので、漢字や英単語を教えたりと子どもたちとの交流も深めました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ベルリン自由大学は、留学生へのサポートは比較的しっかりしている大学です。語学面では、Selbstlernzentrum という自主学習をサポートする部局があり、その図書館でパソコンなどを使って語学学習ができます。また、その部局が Tandem という語学パートナーの受け付けもしており、そこにメールを送ると、日本語を学習しているドイツ人を探して紹介してくれたりもします。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

パソコンルームは土日や長期休暇でも開いており、そこでパソコンを使って論文をまとめたり、語学学習をしたりしていました。学食は土日は閉まりますが、長期休暇中は平日開いていてよく利用しました。図書館はいくつかあり、メインの図書館である Universitätsbibliothek がちょっと離れた方にあったので、私は中央棟にある Philologische Bibliothek に良く行っていました。ここも蔵書は多いですし、とても静かなので集中して勉強できます。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

私は現在博士課程ですので、いわゆる一般的な意味での「就職活動」は行っていませんし、また今回の留学が、他者からの評価という点でプラスになるかマイナスになるかは正直分かりかねます。しかし、私の精神的な部分においては、極めてプラスになっているのは間違いありません。そのことについては下記の「留学を振り返って」にて詳述したいと思います。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

「就職に対する考え方」に与えた影響といえば、やや逆説的になりますが、日本の就職活動というシステムがやや視野の狭いものではないかということに再認識したことが挙げられます。特に、いろんな人生経験を積むことなく、ただマニュアルに従って面接や筆記試験の準備に追われるのが日本の大学生の現状のように思えます。それに対し、ヨーロッパの人たちは概して、もっと人生について余裕を持ちながら構えているように思えます。重要なのは自分がどういう能力を持っているか、どういう幅広い経験をしてきたか、これから何をしていきたいかという点にあるのであって、そこを意識させる教育が日本では著しく欠けており、とても息苦しい大学生活を多くの学生が強いられているように見えるのは、大変残念に思えます。そういう点から改善をしていくことが、本当の意味で国際的な人材を育てるということに繋がるのではないのでしょうか。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特にありません。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

1年という期間は長いようであつたという間でしたが、非常に貴重な学びを多く経験できた期間だつたと思います。留学する前はドイツ語力が不十分で、また専門の研究でも近代ドイツしか見えていませんでしたが、ドイツに滞在したことで、ドイツ語力が上がったのはもちろんのこと、フランス語やラテン語にも関心を持ち取り組むようになりました。また、今後の研究においても自分の本当の関心は近代ドイツに限ることなく、古代ギリシャ、ローマから続いている教育、言語をめぐる幅広い諸々の歴史、伝統にあるのだということに気づき、研究テーマを大幅に変更するに至りました。この変更は、自分自身の見方、視点のみならず人間性そのものが深みを増してきたからこそその結果であると思っています。自分の人間性を豊かにする、深めるという経験、これが留学の一番大きな意義と言えるのではないのでしょうか。

②留学後の予定

私の研究が完成度を増すためには、日本語、英語はもちろんのこと、ドイツ語、フランス語、ラテン語、古代ギリシャ語の知識、理解が深まっていかなければいけません。そのため、留学後ももちろん、それらの学習に集中して取り組みます。ドイツ語は現在 C1 レベルですがまだ所々に理解不足があります。フランス語、ラテン語は A2 レベルでまだ初級段階なので、まずは一通りの書物が読めるようになる B2 レベルにまで高める必要があります。今回の留学でギリシャ語にまで手が回らなかったのは心残りですが、それは日本で始めます。西洋の哲学や歴史を研究する際に重要といわれるそれらの言語を自分で学習することで、その経験を通してもう一つの研究テーマである外国語教育に対して私なりの感覚や所見を得ることが可能だと思いますし、また実際に、ラテン語やフランス語のテキストの中で文法教育の歴史的展開や諸問題について読み、まとめられるレベルにまでなっていきたいと思います。西洋言語を徹底的に習得したうえで、教育史や哲学を土台とした外国語教育研究を行っていく、これが私の将来の目標です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

上記にも述べたように、自分のやりたいことを悔いなく、思い切ってやるのが重要だと思います。やりたいけども失敗が怖くてやらない、ということは極力ないように、チャレンジ精神を持って取り組むことが大事です。この点については、特に日本人は弱い気がします。あるいは、これといった目標がなく、ただ遊びに来ているだけで、観光客の人たちとやっていることがほとんど変わらないような日本人留学生も見かけます。大学やそれ以外の学校(ドイツには Volkshochschule という公的な市民学校があります)の授業に積極的に取り組む多くの他の外国人留学生たちの意欲、貪欲さを目の当たりにしたとき、いったい他の日本人は何をやっているのかと少し寂しい気持ちになりました。そして、彼らとは授業を通じて良い友人になりましたが、意欲だけでなく実力的にもとても高かったように思えます。もちろん思いっきり遊ぶことも大事ですが、そうした他国の留学生から何か学ぶべきことがあるのではないのでしょうか。日本は特に、なんでも揃っていて便利で、とりわけ貪欲になって自分を磨かなくてもどうにかなるような社会状況が続いてきましたが、その反面、難しいことにチャレンジしやり遂げるという意志、ガッツを持った人たちが少なくなっているのではないのでしょうか。そのことを、肌で感じる事が出来ればそれだけでも留学する意義はあるように思えます。そして、それに気付いたならば自分のやりたいことに向かって一生懸命頑張るのみです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

○住居探し

WG Gesucht: <http://www.wg-gesucht.de/wg-zimmer-in-Berlin.8.0.1.0.html>

○ドイツの日本人コミュニティ

1. あっとベルリン(ベルリンのみ): <http://www.atberlin.net/>

2. MixB(ドイツ全土): <http://ger.mixb.net/>

○ベルリンの市民学校

Die Berliner Volkshochschulen: <https://www.berlin.de/vhs/index.html>

○ベルリン日本人国際学校

ホームページ: <http://www.jap-schule-berlin.de/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。